

支え合うまち小松島

社協だより

小松島地区社会福祉協議会
仙台市青葉区小松島4-7-1
(小松島コミュニティセンター)
TEL: 022-274-6181

小松島地区福祉協議会 会長 菅原 勲

いつも福祉活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。

令和7年度小松島地区社会福祉協議会総会が5月17日(土) 13:30から高松一丁目集会場で開催されました。令和7年度事業計画、令和6年度収支決算書が承認されましたのでご紹介いたします。



令和7年度事業計画

急速な少子高齢化、世帯の小規模化に伴い、住民の福祉ニーズも多様化、複雑化して、これまでに増して地域で支え合う環境づくりが求められております。しかし、地域での助け合い機能低下や人間関係の希薄化により支援を要する方々の環境は大変厳しくなっています。

このためには、地域の実態を把握し、個人の人格や意思を尊重した支援や見守り活動を行うことが大切になっています。

さらには、地域の子供を守り子育て家庭を取り巻く諸問題にも目を向け、支援をしていく必要があります。そこで、小松島地区社会福祉協議会としては、以上の情勢を念頭に、町内会・日赤・共同募金会等の関係団体と連携を密接にして、地域住民による共助の精神に基づく「支え合い」による、安心して住みよい町づくりに努めることを目標にします。

- 1、 小地域福祉ネットワーク活動を推進し、各福社区毎に、町内会、民生児童委員福祉委員などによる地域ぐるみでの支援協力を得ながら「安否確認活動」や「日常支援活動」に取り組む。

「町内会役員・班長・福祉委員による活動推進」

- 2、 ふれあいサロンの活動の充実強化、活動化を図り、交流促進・情報交換安否確認生きがい対策の場とする。

「各福社区毎に年3～4回の高齢者サロンの実施」

- 3、 福祉を支える福祉委員の加入促進を図るとともに親睦交流、資質向上と活動の強化を目指す。

「福祉委員の加入促進と福祉懇話会の定着」

- 4、 災害時の支援体制については、学区町内会連合会等他団体と連携を密にしすみやかに支援体制を確立する。

- 5、 「社協だより」の発行と内容充実の他、福祉情報を提供し情報共有化に努める。

「社協だより年2回発行、研修会の実施」

- 6、 青少年の健全育成を図り、併せて児童館を中心に子育て支援活動を強化する。

「子育て支援活動 年10回予定」

- 7、 福祉資金の貸し付けを行う。



令和6年度 収支決算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

小松島地区社会福祉協議会

収入金額 一金 3,005,423円
 支出金額 一金 1,304,499円
 差引金額 一金 1,700,924円

○収入の部

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	摘 要
繰越金	1,673,862	1,673,862	0	前年度からの繰越
会費	640,000	664,500	24,500	一般会計 661,500円、賛助会計 3,000円
助成金	850,000	666,250	△183,750	地区社会福祉協議会助成金 332,250円 基礎的活動助成金 216,500円 生活支援活動助成金(上半期分) 117,500円
雑収入	138	811	673	利息
合計	3,164,000	3,005,423	△158,577	

○支出の部

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B)－(A)	摘 要
会費納付金	700,000	664,500	△35,500	市社協へ
会議費	20,000	20,000	0	コミセン運営協力金
事務費	30,000	8,345	△21,655	コピー代、切手代等
広報費	100,000	180,642	80,642	社協だより43号・44号
研修調査費	30,000	17,000	△13,000	研修会参加費用
活動費	500,000	411,372	△88,628	サロン助成金、福祉懇話会、子育て支援等
渉外費	10,000	0	△10,000	慶弔費、協賛金
諸費	4,000	2,640	△1,360	振り込み手数料
予備費	1,770,000	0	△1,770,000	
合計	3,164,000	1,304,499	△1,859,501	

令和6年度の会計について監査したところ、適正に処理されており決算書のとおり相違ありません。

令和7年 5月10日

監事

加藤 清賢 (印)

監事

千田 美保子 (印)



小松島地区男性の皆様へ

小松島地域包括支援センター 横田 光生



皆さん、小松島社会福祉協議会協賛による『男の料理教室』をご存じでしょうか？

同会は平成17年に発足、『男性の居場所作り！』が目的の男性が楽しむ集いの場所です。

私は平成28年から参加している横田と申します。コロナ禍の中断期間もありましたが、足掛け10年ほど参加させて頂いています。早いもので参加して10年、自分なりに続けられる理由は何か自問自答してみると、普段、包丁など握った事ない者同士(それこそ同会でしか顔を会わない方もいらっしゃる。)が気兼ねなく『案外おいしくてきたね！次に入れるの塩？砂糖どっちだっけ？』などワイワイ楽しく料理に取り組み、作った後にみんなで食事をする楽しみが1つ。もう1つの魅力は料理を作った後に感じる『達成感』だと思っています。『達成感』とはどういう事？と思う方もいらっしゃると思いますが、普段料理と無縁な男同士が『ああでもない、こうでもない』と力を合わせて作った料理は最高の

1品で、必ず『達成感』を味わう事ができます。(案外、俺って料理上手なのではと錯覚したりもしています。)

繰り返しますが、同会の目的は料理を上手につくる事では無く、男性同士が気兼ねなくワイワイできる居場所作りです。下ごしらえの難しい部分は久保先生の方で加工してくれていますので、私が行うのはビニールに、ハンペンと鳥のひき肉を入れて手でモミモミして肉団子を作り鶏ガラスープに入れるだけです。ぜひ、『美味しい料理』と『最達成感』とはどんな物かチラッとでも覗いてみてくれると嬉しいです。



「談話室」について



地域福祉活動推進委員(民児委員) 長澤 栄治

地域の福祉活動について、日頃からご協力いただき感謝申し上げます。

小松島地区社会福祉協議会では、皆様の集まりの場として「談話室」を基本的に第一水曜日の10時30分～11時40分まで年に10回程度行なっています。これまでは小松島コミュニティセンターで行なっていましたが、昨年秋から改築工事を行っており使用できないので、昨年12月から高松一丁目(高松通り)の十念寺を会場にお借りして行なっています。

今年の談話室は、2月5日地域の方の手品(庄司様)と脳トレ体操、3月5日「免疫力とは?生活改善で免疫力アップ」(高松薬局様)と軽体操、4月2日「椅子に座ってできる楽しい体操」(リハビリサポートセンター様)、5月7日「ゲキタイカルタ」(特殊詐欺対応)(小松島地域包括支援センター)、6月4日講話「特殊詐欺について」(小松島交番様) 軽体操、7月2日講話「熱中症について」(花京院地域包括支援センター) 軽体操、8月は暑いのでお休み、9月3日講話「台原老人福祉センターについて」(台原地域包括支援センター)を行なっています。

談話室の内容については、毎月の地区社会福祉協議会の企画委員会で、民児委員、仙台市社会福祉協議会青葉区事務所、小松島地区担当の地域包括支援センター(小松島、台原、花京院)のメンバーで検討しています。

高齢になると外に出るのが大変になってきますが、日頃から外出して足腰を鍛えることと、社会と繋がることは健康にとって大切です。

開催は地域の掲示板でお知らせしますので、是非お運び下さい。参加費は無料、予約不要で、お茶とお菓子が出ます。



広報委員会委員 荒井 早苗

町内逍遙 ～その3(四ツ谷用水)～



今年は昭和100年(戦後80年)の年に当たります。テレビ等ではこの100年を回顧する番組が組まれたりしています。昭和40年前半にも似たような社会状況があり、「明治は遠くなりにはけり」のフレーズが流行ったりしました。確かに「100年」は大変な時間の流れですが、私にはそれほどの「昔」には感じられません。というのも、ちょんまげ・帯刀の江戸時代末から160年そこそこであり、小学校が新設された明治5年(1872年)からは150年余です(小松島小学校は昨年開校70周年でした)。また、「人生100年、元気で100年」が当たり前ようになってきている長寿社会の現状からも、「親しめる100年」に感じられるのだと思います。

と言いながら、もう少し時間を遡ると話は変わってきます。400年前と聞くとさすがに時間の流れの重みを感じます。私は江戸時代の仙台・宮城のヒト・事・物が大好きです。その一つが「芭蕉の辻」です。これは、伊達政宗が、青葉城から東へ続く道(現在の大町通り)と南北に走る奥州街道との交点(現在の日本銀行支店)から町作りを始めたのです。ここは明治の初めまでとても賑わいました。明治8・9年頃のその様子を熊耳耕年(くまがみこうねん)が描いています。この絵をよくよく見ると、道の真ん中に黒い筋のような物が描かれています。これが「四ツ谷用水」です。城下の「まち」作りには、生活用水・防火用水(後に動力用水・農業用水ともなる)としての水の確保が必須でした。この水を広瀬川上流の郷穴(ごうろく)から取水し、梅田川(福沢町の宝蔵院橋付近一写真)で放流した全長約48kmの壮大な歴史遺産です。途中、隧道を掘り、樋を渡し、支流を設けてまち中を縦横に潤わせました。仙台城下は豊かな「水のまち」(湧き水も含めて)になったのです。仙台は「杜の都」と言われますが、同時に「水の都」でもあったのです。

今では暗渠になったりコンクリートで蓋をされたりして往時の姿を見られるのは難しいのですが、実は現在でもこの用水からの水を工業用水として利用しているのです。近場では小松島小学校のプール南側の市道地下を工業用水路が走っているのです。

「看脚下」という言葉があります。町内をぶらぶら歩いて目にする身近な事物からの気づきや発見にワクワクするとともに、足下をしっかりと見つめていこうという気持ちになります。余談ながら、梅田川と貞山堀の水の流れにも興味があります。意欲が萎えないうちに調べてみたいと思っています。

編集後記

社協だより46号をお届けします。今年の夏は猛暑で大変でした。これからの夏はこういう風になるのかなあと心配しております。それに物価高、特に米は高くなりましたね。悪い話ばかりではありません。来年はいよいよ私たちのコミュニティセンターが完成します。不便が解消されいろいろな活動がしやすくなります。「生涯青春」で人生を謳歌したいものです。みなさま健康にご留意下さい。

